様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ５ 月 ２７ 日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2010～2014
課題番号：２２３９０４０５

研究課題名（和文）医療の高度化に伴う看護系大学の高大接続問題　－看護職志望者の適性と大学入試－

研究課題名（英文）Articulation Probrems between High School and University among Nursing Universities caused with Advancement in Medicine

研究代表者
倉元　直樹（KURAMOTO, Naoki）

東北大学・高度教養教育・学生支援機構・准教授

研究者番号：６０２３６１７２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　11,200,000円

研究成果の概要（和文）：近年，看護系専門職の養成は急速に四年制大学中心へとシフトしていっている。高校段階で理系・文系のコース分けが進む中，看護系専門職を志す高校生は進路選択の上で難しい判断を迫られる。本研究では，大学調査，高校調査，海外調査の三つのプロジェクトを実施した。大学調査では看護系学生本人，高校調査では進路指導担当教員を対象に大規模質問紙調査を行い，看護系学生の学習履歴，適性，志望動機，適応状況等について明らかにした。

研究成果の概要（英文）：The nursing education in Japan is now rapidly changing from vocational school oriented system to higher education. It is difficult for students aiming to become nurse to decide whether to take liberal arts or science programs in the high school period, because of the variety of the subjects among universities carried out in the entrance examinations. The present project was implemented in the following three parts, university project, high school project, and oversea project. We performed a large-scale inventory survey to the nursing students in universities and vocational schools. More than 2000 students participated in our project. In the high school project, more than 1300 high school teachers responded to our questionnaire. We clarified learning history, fitness, desired motive, the adaptation situation of nursing students.

研究分野：教育心理学

キーワード：看護系大学　学力　適性　高大接続　学習履歴　進路指導　入試　カリキュラム

１．研究開始当初の背景

看護系専門職の養成が 4 年制大学中心へとシフトしていく中，如何にして優秀な人材を看護系大学に惹きつけていくことができるか，その方策を探る．高校段階で理系・文系のコース分けが進む中，双方の適性が必要となる看護系大学の入試形態は複雑な様相を呈している．その結果，看護系専門職を志す高校生は進路選択の上で難しい判断を迫られ，看護系学部は入試制度の狭間で極めて不利な立場に置かれている．

現状の教育制度の下，看護職志望の高校生が身につけるべき適性・能力はどのようなものか，さらに看護系大学ではどのような入学者募集戦略が可能なのか．看護教育学，統計学，教育接続論といった学際的なアプローチにより，具体的にその要因を解明し，看護系大学のための入試戦略モデルの構築を試みた．

２．研究の目的

看護学系で学ぶ学生に求められる資質・適性・学力と志望する受験生の意思決定プロセスを見出すことを目的とした．

３．研究の方法

「看護系大学，および，看護系の専門学校の学生に対する調査」と「主として看護系大学を志望する高校生に対する調査」を基軸とした．文献調査や海外の事例なども参考に，設置者や大学の立地条件等の要因を加味しながら，四年制大学における看護教育の前提となる高校時代のコア・カリキュラムを見出すことを試みた．

４．研究成果

(1) 研究プロジェクトの基本構成

本研究は，「大学調査」，「高校調査」，「海外調査」という三つの下位プロジェクトに分かれて全体として研究目的を完遂するというアプローチをとった．

「大学調査」は，2010（平成 22）～2011（平成 23）年度に実施した，看護系大学，および，看護学校（看護師学校養成所３年課程，看護専門学校）の学生を対象とした「質問紙調査」を中心に実施した．

「高校調査」は，2013（平成 25）年度に実施した高等学校進路指導担当教員を対象とする「質問紙調査」を中心に実施した．

「海外調査」は，ドイツ調査，台湾調査が中心に実施した．

(2)　大学調査

①看護系大学の入試構造に見る高大接続問題

看護専門職養成課程の多様な養成ルートの中で，４年制大学の急速な量的拡大が何をもたらしているのか，主として看護系大学の入試科目の類型化を目指して分析した．

結果として，現在の看護系大学の入試は，（A）大学ごとに多様な入試科目を課すものの，（B）そこで課される入試科目は大学の属性に強く関連している，という構造を持つことが明らかになった．

②大学調査（インタビュー）

大学調査（質問紙調査）のパイロットスタディな位置づけの研究である．大学への進学を前提とした進路探索の中で，看護系の分野が選択肢の一つと考えられる傾向が強いことが示唆された．

③大学調査（質問紙調査）の概要

平成 22 (2010) ～23 (2011) 年度に看護系大学や専門学校に通う学生を対象に実施したアンケート調査における基礎集計についてまとめた．調査への協力校は，看護系国立大学 3 校，公立大学 3 校，私立大学 5 校，看護専門学校 7 校，調査対象者総計 2,868 名，有効回答者数 2,080 名，回収率 72.5%の調査であった．

受験勉強経験率は「国語（現代文）」「数学Ⅰ」「数学 A」「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」の比率が 80%を超えており，「国語（古文）」「数学Ⅱ」「数学 B」「生物Ⅰ」「英語（リーディング）」「英語（ライティング）」が 70%近くに達していた．「国数英」のいわゆる主要 3 教科以外では，「生物Ⅰ」のみが多く学生が受験勉強を行った科目となっていた．

④看護系公立大学入学者の学校選択

同調査の中で，公立大学入学者にターゲットを絞って分析を行った．その結果，受験を決めた理由では「資格」「学費」「自宅から通える」が国立，私立よりも多かった．また，国立，私立に比べて推薦入試での入学が多く，自宅生比率が最も高かった．

⑤看護系の学校に進学した男子学生の状況

同調査の中で，特に少数派に属する男子学生に関するデータに焦点を当てて分析を加えた．女子学生では，看護が第一志望で，早い時期から志望していた者が多いのに比べ，男子学生では，第一志望でない者が多く，浪人生や私立大学が多く，志望先を決めたのも遅いなど，看護系の学校への進学に対するモチベーションが低いことが窺えた．

⑥進学地域移動と進学動機

大学ポートレート準備委員会が公表しているデータと本研究の大学調査を合わせて，進学に伴う地理的移動に進学動機を絡めて分析した．看護系高等教育機関では，看護師養成カリキュラムが「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」によって決められていることにより，各大学のカリキュラムの相違が見えにくいことから大学の独自性を進学動機に繋げることが困難である．しかし，それ

でも進学地域移動が見られた.

⑦選抜試験・カリキュラムの遡及的分析
歴史学的な視点から，看護専門職養成機関の入学者選抜と我が国における明治期の産婆（助産師）養成機関のカリキュラムという２つのテーマについて考究した.

(3) 高校調査

①高校調査（質問紙調査）の概要
平成 25 (2013) 年度に全国の高等学校，および，中等教育学校の進路指導担当教員を対象として実施したアンケート調査における基礎集計をまとめた．対象を高校生としなかったのは，「看護系志望の高校生」という母集団を手続き的に定義することが難しいこと，実施に当たって調査対象となる学校に著しく大きな負担がかかること，という二つの条件を勘案したためである．特別支援学校等を除く全国 5,028 の高等学校，中等教育学校の中から無作為に抽出された 2,000 校を調査対象とした．1,319 校から有効回答が得られた (回収率 66.0%).
男子校や工業高校などの専門高校も含め，全ての回答校の中で「ほとんどいない」という回答は 14.2%に過ぎなかった．学生自身が回答した大学調査結果と比較して，看護系大学への進学の理由として，高校教員は「収入の金額が十分」という項目を低く，「将来の仕事に興味・関心」という項目を高く評価していた．また，学習履歴の面では高校時代は回答者の 2/3 が理系で学んでいたのに対し，「理系型入試」を課している大学は 12%のみであることから，高校時代に何を求めるかというアドミッションポリシーの体現としての入試科目との間に齟齬があることが分かった.

②看護系志望者の適性と大学入試
ここでは，本研究に二つの大規模調査とは異なるソースから得られた知見を紹介する.
S 大学看護学部の事例研究として，進学を考え始めた時期について調査を行った．高校１年が最も多く，高校２年，高校２年までに考え始めていることが判った.
看護学以外の学問的基盤や経験を持つ人材が看護職を志望するようになっている．学士号を持つ学生は持たない学生とは異なる年齢，性別，教育・学習における背景を持っていることがわかった．また，教育機関の選択や受験を決める時期にも異なる特徴があった．18 歳人口が減少するなか，大卒社会人経験者等を対象とした看護職の新規養成促進は不可避であるとされ，彼らの就学を支援する政策が推進されている.

③高校教員からみた看護系志望者の特徴
高校調査から，高校分類によって，「主として大学」と「主として専門学校」と別れるものの，両者とも，「地元志向であること」「第一志望と考える割合が多いこと」「生徒本人の意見で受験先を決定する傾向があること」が共通していた．看護系への進学希望者の学力層では，D と E の高校において成績上位者層が進学を希望する傾向がみられた．入試区分では，学力層に基づき一般入試で受験する割合が高い群と推薦入試での受験が中心の軍に分かれた．看護系で取得できる資格に対する認識は，非進学校になるにつれて取得が難しい資格であると認識されている．生徒を指導する教員が看護系分野への進学に向いていると感じる部分は，進学率が高くなるにつれて「コミュニケーション能力が高い」「リーダーシップがある」「何事にも忍耐強い」などの個人の性格やスキルの部分を挙げているのに対し，非進学校では，「家庭に学費を賄う経済力がある」などの経済的な要因を重視する傾向がみられた.

④看護系志望の高校生に求められる学力・適性に関する高等学校進路指導教員の意識
看護志望者は「理系」「文系」のいずれで学ぶべきかという設問には，全体の 50%が「理系」，42%が「どちらとも言えない」と回答した．男性回答者では進学実績によって有意な差（$\chi 2[4]=25.3$，「国公立志向」が「理系」72%，それ以外が 33～59%）が見られたが，女性回答者では違いがなかった（29～55%）. 14 の尺度については，「不適応の原因」のうち「理解力」のみ進学実績に乏しい高校がより「心配」という結果であった.

(4) 海外調査

①台湾
2010 年 12 月に国立台湾大学医学部看護学科（國立臺灣大學醫學院護理學系所）を訪問し，入手した入試とカリキュラムに関する資料を翻訳した.

②ドイツ調査
2012 年 3 月にミュンヘン大学併設バイエルン州立助産師専門学校，イエーナ大学，イエーナ大学附属図書館，ドイツ看護協会に訪問調査を行った.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計 2 件）

① 倉元直樹・小山田信子・吉沢豊予子 (2012). 看護系大学生の進路選択と履修経験に関する予備調査，東北大学高等教育開発推進センター紀要, 第 7 号, 69-76, 査読有.

② 金澤悠介・倉元直樹・小山田信子・吉沢豊予子 (2011). 看護系大学の入試構造に見る高大接続問題，大学入試研究ジャ

ーナル，No.21，49-57，査読有.

.

〔学会発表〕（計 6 件）

① 倉元直樹・鈴木幸子・小山田信子・小松恵・吉沢豊予子 (2012). 看護系学生の知的基盤――大規模学生調査から見えてくるもの――，日本看護学教育学会誌日本看護学教育学会第 22 回学術集会講演集，243，熊本県立劇場，2012 年 8 月 4-5 日開催.

② 倉元直樹・小山田信子・小松恵・吉沢豊予子 (2011). 危機に立つ看護教育？－看護系志望者は何を学んでくるのか－，日本看護学教育学会第 21 回学術集会講演集，124，大宮ソニックシティ， 2011 年 8 月 30-31 日開催.

③ 倉元直樹・小松恵・小山田信子・吉沢豊予子 (2011). 看護系志望の高校生に求められる学力・適性に関する研究 (3)，日本教育心理学会第 53 回総会発表論文集，548，北翔大学（かでる 2・7），2011 年 7 月 24-26 日開催.

④ 倉元直樹・金澤悠介・小松恵・小山田信子・吉沢豊予子 (2010). 看護系志望の高校生に求められる学力・適性に関する研究 (2)，日本教育心理学会第 52 回総会発表論文集，727，早稲田大学，2010 年 8 月 27-29 日開催.

⑤ 小山田信子・吉沢豊予子・金澤悠介・倉元直樹 (2010). 高校生の進路から見た看護系大学の類型，日本看護学教育学会第 20 回学術集会講演集，219，大阪国際会議場 (グランキューブ大阪)， 2010 年 7 月 31 日-8 月 1 日開催.

⑥ 金澤悠介・倉元直樹・小山田信子・吉沢豊予子 (2010). 看護系大学の入試構造に見る高大接続問題 －アドミッションポリシーと進路選択における意思決定－，企画セッション　大学入試センター・個別大学アドミッションセンター連携プロジェクト －大学入試学の新展開－，全国大学入学者選抜研究連絡協議会第 5 回大会研究発表予稿集 (取扱注意)，45-50，独立行政法人大学入試センター・北九州市立大学 (北九州国際会議場)，2010 年 6 月 8-9 日開催.

〔その他〕
ホームページ等

http://www.ihe.tohoku.ac.jp/kuramoto/index.html

６．研究組織

(1)研究代表者

倉元　直樹（KURAMOTO, Naoki）
東北大学・高度教養教育・学生支援機構・准教授
研究者番号：60236172

(2)研究分担者

柳井　晴夫（YANAI, Haruo）
聖路加看護大学・看護学部・教授
研究者番号： 60010055
（平成 25 年 7 月 31 日まで）

吉沢　豊予子（YOSHIZAWA, Toyoko）
東北大学・大学院医学研究科・教授
研究者番号： 80281252

鈴木　幸子（SUZUKI, Sachiko）
埼玉県立大学・保健医療福祉学部・教授
研究者番号： 30162944

西川　浩昭（NISHIKAWA, Hiroaki）
静岡県立大学・看護学部・教授
研究者番号： 30208169

小山田　信子（OYAMADA, Nobuko）
東北大学・大学院医学研究科・准教授
研究者番号： 40250807

西郡　大（NISHIGORI, Dai）
佐賀大学・アドミッションセンター・准教授
研究者番号： 30542328

木村　拓也（KIMURA, Takuya）
九州大学・基幹教育院・准教授
研究者番号： 40452304

(3)連携研究者

金澤　悠介（KANAZAWA, Yusuke）
岩手県立大学・総合政策学部・講師
研究者番号： 60572196

(4)研究協力者

奥　裕美（OKU, Hiromi）
聖路加国際大学・看護学部・特任准教授
研究者番号： 80439512

小松　恵（KOMATSU, Megumi）
独立行政法人国立病院機構仙台医療センター附属仙台看護助産学校・教員